

成蹊大学 Society 5.0 研究所主催

2021 年度第 1 回講演会「DX, データサイエンス, 未来社会」

講演会当日にお寄せいただいたご質問へのご回答

Q. AI で因果推論も最近注目されているようですが、複合技術の構成要素の一つとして因果推論が使われたとすると、どのような新しいことができる可能性があるのでしょうか。

A. 膨大な相関関係の抽出の後、結果のフィルタリングとして有効です。ただし、因果推論もある前提のもとでしか成立しないため、前提が成り立つかの検証が大切であることを肝に銘ぜねばなりません。

Q. 今後 IOT や DX が更なる発展をしていくのにあたり、大きな影響を受けそうな業界があれば、それについてお聞きしたいです。

A. すべての業界が影響を受けますが、特に、いろんなタイプの物流産業は改革待ったなしです。また、成長度の観点から見ると製造業が期待できます。

Q. 市場のニーズをビッグデータとして集約してそれらに応えていくという考え方がありますが、一方ではこうしたデータ解析を通じて消費者を一定方向に誘導するという側面もあります。（アマゾンで書籍を購入すると「関連する書籍」を紹介してくるなど）AI 運用にあたっての「倫理」の確立が必須だと思いますが、どの程度重要視されているのでしょうか？

A. これまでそのアルゴリズムは企業秘密とされてきましたが、個人が生成するデータが個人のものとなると、データにもとづきどのようなアルゴリズムを使っているかをビッグテックはサービス毎に開示する責務を負うようになると想像します。

Q. 「横串を指した教育」という中では、具体的にどのようなことを学んでいくべきなのでしょう。リベラルアーツと同じ意味なのでしょう。

A. リベラルアーツというより、「読み書きそろばん」に近いものです。

Q. 言葉（言語）の統一は図る必要はありませんか？世代・業種・現場等々で日本語が通じなくなっている感じを最近強く感じています。

A. そのとおりです。ご指摘ありがとうございます。自省しております。

Q. データサイエンティストには汽水領域としての現場力が大事ということでしたが、大学教育でその部分を強化するためにできることはなんですか。基本は社会に出てから身につけるものかもしれませんが、一方で現場に漬かりすぎると有効な発想を阻害するような気もいたしますので、学生のうちに問題に対峙する距離感のようなものを身につけておくことが必要でないかなと思っています。

A. ドメインによらず、縦系（専門）と横系（AI・DS）を組み合わせる力の養成は、大学の時に行うべきです。これにより、「問題に対峙する距離感」がむしろ適正につくと期待しています。多様な価値観、人によって異なるリスクに対する受け止め方など、複雑にからみあう制約・条件の中で、なるべく多くの人が納得できる意思決定ができる人材育成には、大学での現場力（単に、すぐに役に立つ技術力の習得でない）の養成が大切でしょう。

Q. データサイエンスをベースとした深層学習は、いわばデジタル・ソサイエティの今世紀の大きな集大成とみてよろしいですか？

A. それは違います。深層学習の有効性は、記憶とは何か、人間の知識処理とは何かなど、深く考えるととても意義深いものです。しかしながら、デジタル・ソサイエティのすべての出発点と基盤は、ビッグデータの効率的な集積とその利用のための情報プラットフォームの構築にあるでしょう。